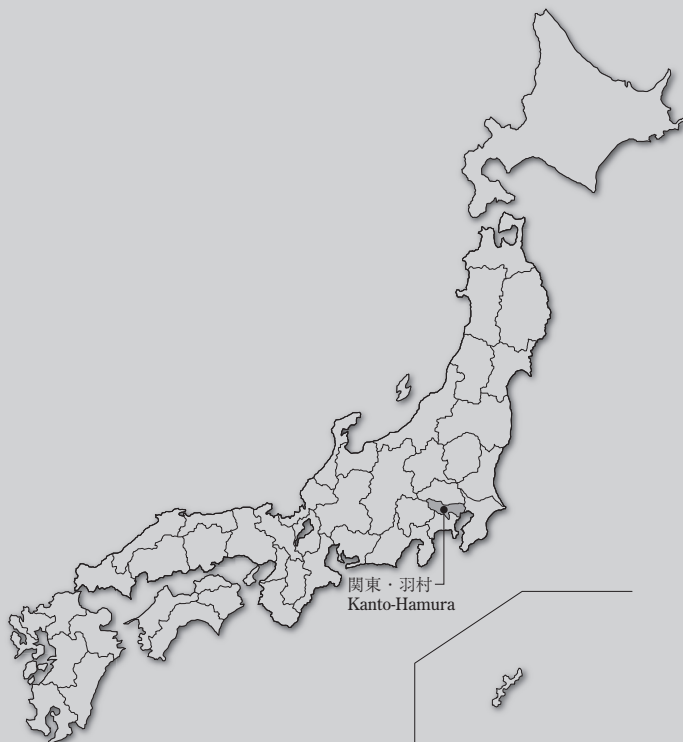


関東・羽村の民具

Mingu of Kanto District-Hamura

神野善治



凡 例

- 1) この表は、羽村町史史料集第十一集『羽村の民家（旧下田家）とその生活用具―民具編―』（羽村町教育委員会 1984年）をもとに、作成したものである。この史料集の刊行に際しては、調査・本文執筆を増田昭子、図版作成を宮本八重子、田中千晶、野上彰子、佐藤浩、米川幸子、整理・まとめを島田秀男の各氏が担当されている。
- 2) 本表の分類（掲載順）は、文化庁内民俗文化財研究会編著『民俗文化財の手びき』をもとに作成された『羽村の民家（旧下田家）とその生活用具―民具編―』に準じている（下記目次参照）。
- 3) 「名称」欄の民具名は、『国際常民文化研究叢書 6 一民具の名称に関する基礎的研究―[民具名一覧編]』（神奈川大学 国際常民文化研究機構 2014）に記載の名称に揃うよう心がけたが、[民具名一覧編]に記載のなかったものについては便宜上つけるか、空欄のままとした。
- 4) 「説明」欄の文章は、上記参考文献からの引用である。
- 5) 「画像ファイル名」欄に記載のあるものは、本叢書 112 ページ以降の画像一覧にまとめて掲載した。画像はすべて上記資料からの引用で、羽村市教育委員会のご協力により、転載を許可していただいた。貴重な労作を利用させていただいたことに、改めて感謝申し上げたい。
- 6) 「画像ファイル名」について
画像ファイル名は、出典をたどれるように名づけた。「羽 1」は『羽村の民家（旧下田家）とその生活用具―民具編―』を表し、アルファベットは分類記号（目次参照）、数字は分類番号、さらに実測図の番号と当該地における名称が続く。
例) 羽 1_A001_018 図・スゲガサ
→『羽村の民家（旧下田家）とその生活用具―民具編―』の A（衣生活用具）で、分類番号 1、実測図（見取図を含む）第 18 図の「スゲガサ」（当該地の名称）であることを表す。

目 次

A. 衣生活用具 ……………p. 105	J. 交易用具 ……………p. 110
B. 食生活用具 ……………p. 105	K. 社会生活用具 ……………p. 110
C. 住生活用具 ……………p. 106	L. 信仰用具 ……………p. 110
D. 農耕用具 ……………p. 107	M. 民俗知識用具 ……………p. 111
E. 漁撈用具 ……………p. 107	N. 娯楽用具 ……………p. 111
F. 養蚕用具 ……………p. 108	O. 年中行事用具 ……………p. 111
G. 紡織用具 ……………p. 108	
H. 諸職用具 ……………p. 109	画像一覧 ……………p. 112
I. 交通・運搬用具 ……………p. 110	

名称	羽村での名称	説明	画像ファイル名
A. 衣生活用具			
菅笠	スゲガサ	菅製のかぶり笠。	羽1_A001_018図-スゲガサ
帽子	ボウシ	中折れ帽子。ふだんの日やハレの日にかぶった。	羽1_A004_001図-ボウシ
帽子箱	ボウシノハコ	帽子入れ。「特約店雑貨屋具服店洋品部」の銘がある。	
シャツ	シャツ(下着)	第二次大戦中の配給品。男物の下着。人絹。	羽1_A007_004図-シャツ
	シャツ(上衣)	男物の上衣用シャツ。商標「戴冠 HANIU Hirakawa」	羽1_A009_002図-シャツ
印半纏	シルシバンテン	消防団からの支給品。背中に染め抜き「西多摩」、前衿の左右に染め抜き「西多摩村消防組」。	羽1_A010_005図-シルシバンテン
手甲	テッコウ	腕に巻いて防虫・防寒・けがなどを予防するもの。紺色。木綿製。	羽1_A011_006図-テッコウ
肘当て	ヒジアテ	畳屋のひじあて。紺色。木綿製。	羽1_A012_007図-ヒジアテ
股引	モモヒキ	男物の下衣。総捨せ(冬用)。紺色。木綿製。	羽1_A013_003図-モモヒキ
袴	ハカマ	女子生徒用行灯袴。高等小学校のとき祝日に着用。モス地。エビ茶色。	羽1_A014_008図-ハカマ
角帯	カクオビ	男物の帯。普段着(木綿物)の着物を着た時に締めた。	
脚絆	キャハン	脚に巻いてけがの予防・防寒に備えたもの。こはぜ付き。	羽1_A016_009図-キャハン
足袋	タビ	配給品。3枚こはぜ	羽1_A018_010図-タビ
草鞋	ワラジ	2乳わらじ。自家製。	羽1_A019_011図-ワラジ
下駄	コマゲタ	女物。普段用。	
	トコツキアトマル	女物。よそゆき用。嫁入りのときに持参。竹皮表。	羽1_A021_013図-トコツキアトマル
	アズマゲタ	女物。ハレの日用。婿から嫁へ贈り、嫁入りのときはきものとした。竹皮表。	羽1_A022_012図-アズマゲタ
	トコツキノゲタ	男物。竹皮表。ノメリの下駄。	羽1_A025_014図-トコツキノゲタ
雨具、防寒、日除け用具			
背当	セナカミノ	背中簾。雨除け用。男女兼用。スゲ製、自家製。	羽1_A026_016図-セナカミノ
簾	ミノ	雨除け用。男女兼用。スゲ製、自家製。	羽1_A027_017図-ミノ
日傘	ヒガサ	女物。灰褐色の絹地。柄に螺鈿入。	羽1_A006_019図-ヒガサ
手袋	テブクロ	子供用。	
裁縫・洗濯用具			
石鹸入れ	セッケンイレ	編み籠。洗たく石鹸を入れておいた。	
裁縫箱	ハリバコ	裁縫用具一式を入れた。	羽1_A030_015図-ハリバコ
くけべら	ヘラ	布地に印をつける際に使用する。	
B. 食生活用具			
貯蔵用具、保存・加工用具			
水甕	ミスガメ	4斗入り。	
梅干がめ	カメ	鉄釉。梅干を入れる。	
砂糖入れ	ギヤマンノビン	砂糖入れ。	
徳利	トックリ	菜種油用。	
米袋	アサブクロ	米袋。	
梅干鉢	カブトバチ	別名シラハチ。梅干をつける。	
酒樽	サカダル	一斗樽。味噌作りに使用。	
味噌樽	アブラダル	味噌をしこむ樽。	
調理・調整用具			
俎板	マナイタ	餅切り用は細長い。自家製品。杉板。脚付。	羽1_B007_020図-マナイタ
餅切定規	モチキリジョウギ	のし餅を切るときに使用。長いのが特徴。自家製品。杉板。	羽1_B008_021図-モチキリジョウギ
横杵	キネ	餅搗き用。横杵。檜。	羽1_B010_022図-キネ
		味噌搗き用。横杵。檜。	羽1_B011_023図-キネ
篩	コナブリイ	別名キヌブリイ。	
鯉節削り	カンナ	鯉節削り用。	
木鉢	キバチ	別名トチキバチ。おにぎりなどを入れる。	
卸し器	ワサビオロシ	わさび卸し。	
大根突き	ダイコンツキ	切り干し大根作り。	
半切桶	ハンダイ	飯台。まぜごはんをするときに使う。	
うどんすくい	カタツケ	ゆであがって浮いた団子やうどんをすくう。	羽1_B072_024図-カタツケ
米揚笊	アゲザル	といた穀類の水切り。	
茹で笊	ウデザル	団子をゆでる道具。中に団子を入れ、釜や鍋にわかした湯の中に入れてゆでた。ウデザルを使うと団子が釜や鍋につかない。八升鍋用は浅く、六升釜用は深めに作られた。	羽1_B074_026図-ウデザル
すいのう	テスクイ	ゆであがって浮いた団子やうどんをすくう。別名スイノウ。	羽1_B077_025図-テスクイ
ふかし台	シタグラ	鍋釜の中に入れる台。さつまいも、味噌こうじを、蒸籠を使わずにふかすときに使う。	羽1_B082_029図-シタグラ

名称	羽村での名称	説明	画像ファイル名
ふかし笊	シタグルワ	さつまいも、味噌こうじをふかすとき、シタグラの上に載せるザル。蒸籠を使わず、シタグラとシタグルワを使うふかし方を、ベタブカシと呼んだ。	羽1_B082_031図-シタグルワ
布巾	ユギノ	シタグルワの上に敷く麻製の布。味噌こうじをふかすときに使用。	羽1_B082_032図-ユギノ
蒸籠	コシキ	餅米をふかすときに使う丸蒸籠。製茶にも用いた。	羽1_B083_028図-コシキ・フタ・ス
	フカシバタ	餅米をふかすときに使うコシキの蓋。製茶にも用いた。	
	スノ	餅米をふかすときにコシキの底に敷くス。製茶のときはチャブカシノスを使った。	
鉄瓶	テツピン	鉄製。湯沸し用。	羽1_B029_042図-テツピン
薬缶	テツピン	アルミニウムの鋳物。ヤカンとも呼んだ。	羽1_B030_043図-テツピン
飲食用具			
土瓶	ドビン	野良仕事するとき、この中にお茶を入れて持っていった。	羽1_B032_045図-ドビン
急須	キュウス	お茶を淹れる道具。日常の食事に使った。	羽1_B037_044図-キュウス
湯呑茶碗	ユノミチャワン	日常の食事に使った。	
箸	ハシ	日常の食事に使った。	羽1_B041_037図-ハシ
茶碗	チャワン	日常の食事に使った。飯を盛る器。	
	チャツケチャワン	日常の食事に使った。	
皿	サラ	日常の食事に使った。銘々皿。	羽1_B050_040図-サラ
小皿	オテショ	日常の食事に使った。漬物のとり皿。	羽1_B053_041図-オテショ
蠅帳	ハイチョウ	食器入れ。	
薬味入れ	カラミイレ	うどん・そばの薬味入れ。	
めんば	オカズイレ	挽物。弁当のおかず入れ。	
箱膳	ハコゼン	日常の食事に使った。春慶塗。	羽1_B058_055図-ハコゼン
飯櫃	オハチ	ごはん入れ。二升炊き。	
籠	カメノコショウギ	いも・ねぎを洗った野菜類を入れた。ざる目網。	
茶碗籠	モノイレ	茶わん入れ。クマザサ製。	
杓文字差	シャモジサシ	3段。マダケ製。	
めしわん	オヤワン	ハレの日に使用。不祝儀の際はうどん、祝儀の際は米の飯を盛る。黒漆塗り、蓋付きの碗。	羽1_B045_049図-オヤワン
つぼわん	ツボ	ハレの日に使用。漆塗り、蓋付き。深さのある小さめの碗。おかず入れ。	羽1_B046_051図-ツボ
ひらわん	オヒラ	ハレの日に使用。黒漆塗り、蓋付き。深さのない大きめの碗。祝儀には煮物を入れ、不祝儀にはうどんの薬味の菜を入れる。	羽1_B047_053図-オヒラ
膳	オゼン	ハレの日に使用。漆を塗ってある。	
盆	オボン	ハレの日に使用。漆を塗ってある。	羽1_B061_047図-オボン
重箱	ジュウバコ	ハレの日に使用。春慶塗。	羽1_B068_056図-ジュウバコ
		ハレの日に使用。春慶塗。二升入り。祝いに際し、おはぎなどを作って入れ、世話人や親もとに持って行くのに使用。	羽1_B070_057図-ジュウバコ
嗜好品用具			
煙管	キセル	煙草用。	
灰皿	ハイザラ	煙草用。	
火入れ	ヒバチ	たばこ盆用。	
猪口	オチョコ	酒器。	羽1_B026_046図-オチョコ
醸造・製造用具 (製茶用具)			
茶蒸し笊	チャブカシノス	コシキの中に入れ、製茶するのに使ったザル。コシキ、フカシバタと組で使う。	羽1_B084_030図-チャブカシノス
焙炉	ホイロ	この地方の農家の必需品で、自家の飲料を自給した。ホイロ、ホイロブチ、テツノボウ、アミで1組。	羽1_B085_035図-ホイロ組合せ図
火掻き	ボウ	ホイロに火を入れたとき火をかきよせた。	
茶篩	チャブルイ(チャドウシ)	製茶でよった茶の葉を選別した。	羽1_B087_038図-チャブルイ
茶箒	ホウキ	細かい茶の葉をホイロから取り出すときに使用。	羽1_B089_039図-ホウキ
塵取	チリトリ	ホウキで集めた細かい茶の葉を入れた。	
枡	マス	イチゴウマス、イッショウマスなど。	
C. 住生活用具			
行灯	アンドン	室内の明かりとり。	羽1_C001_059図-アンドン
行灯皿	アンドンノシタザラ	油(菜種油)を入れたトウミョウザラ2個を重ねておいて、アンドンの中に入れて使った。	羽1_C002_062図-アンドンノシタザラ
手燭	テショク	照明用具。ろうそくをたてて使った。	羽1_C003_061図-テショク
石油ランプ	マメランプ	明治31年ごろから使われた。火をつけて明かりとりに使用した。	羽1_C004_060図-マメランプ
電球	デンキュウ	ボール箱付「トウランプ」。大正元年、羽村町に電灯がひかれてから使用。	羽1_C006_063図-デンキュウ
電球の笠	デンキュウノカサ	電球の上につけて電球の明りが下方に集まり、上方に逃げないようにしたもの。大正元年、羽村町に電灯がひかれてから使用。	羽1_C007_064図-デンキュウノカサ

名 称	羽村での名称	説 明	画像ファイル名
付木	ツケギ	火をつけて硫黄部分を燃やし、外に点火させるもの。火をつけるときに使うほか、近所などの家から重箱などで食物をもらったとき、お返しとしてツケギ3束を重箱に添えるのにも使った。	
燐寸箱	マッチバコ	マッチを入れておく箱。側面に硫黄が塗ってある。杉板製。上部開き。	羽1_C009_066図-マッチバコ
囲炉裏	ユルリ		
自在鉤	オカマサマ	ユルリの中央に天井から吊るし、鉤部にテツピンなどをかけた。	
団扇差し	ウチワサシ	ウチワをさしておいた。	
湯たんぼ	ユタンボ	陶製。お湯を入れ、風呂敷きにつつんでそばに置き体を暖める。	
座敷蓐	ザシキボウキ	ほうきもち製。座敷などを掃くのに使用。	
蠅取り瓶	ハイトリ	中に米のとぎ汁を入れ、真中に盛った飯をおいて蠅をよびよせ、蠅をとった。ガラス製。	
箱枕	ハコマクラ	嫁入り道具として持参。別名フナゾコマクラ。	羽1_C020_065図-ハコマクラ
屋根葺き用具			
屋根針	ハリ	縄を通して使い、薬を垂木におさえる。	羽1_C016_067図-ハリ
屋根鈎	ハサミ	屋根葺き道具。	羽1_C017_068図-ハサミ
茅叩き、かやそろえ	コテ	屋根葺きで茅などをたたいておさえる道具。	羽1_C018_069図-コテ
普請帳	屋作中覚帳	弘化4年(1847)移築した旧下田家住宅を創建したときのもの。	
D. 農耕用具			
種入れ	ヒョウタン	野菜の種を入れた。	羽1_D001_070図-ヒョウタン
寒暖計	カンダンケイ	さつまいも、なす床に使用。野菜の苗床用。	
踏み鋤	フンガア	畑の深耕用具。	羽1_D005_073図-フンガア
三本踏み鋤	サンボンフンガア	畑の深耕用具。改良型のフンガアで、鉄製の3本歯。土の通りがよく使いやすい。土質のかたい畑で有効。	羽1_D006_074図-サンボンフンガア
風呂鋤	ヒラックワ	風呂鋤。畝立て、土寄せ、さく切りなどに使用。	羽1_D007_076図-ヒラックワ
堀串(ふぐし)	ツクイボウ	除草に使用。手でとれにくい畑の草の根元にさしこみ、根を浮かせてとる。	羽1_D009_072図-ツクイボウ
鋤簾	オカメジョレン	畑作の除草用具。	
熊手	カナクマデ	畑の中の石などをかき集めるのに使用。	
堀り棒	ケレン	掘り棒。穴掘り用の堀棒。棒の先に鋤のような鉄がある。先は平たい。	羽1_D013_077図-ケレン
備中鋤	マンガア	ツクテ(堆肥)を上下にかえす用具。	羽1_D014_082図-マンガア
肥樽	コエダル	畑に下肥や水を運ぶのに使用。栓のついた樽。別名シヨンベンダル・ミスダル。	羽1_D015_079図-コエダル
肥掛け	ユトウ	下肥や水をまくときに、移して使った。持ち手と注口のある桶。	羽1_D019_078図-ユトウ
肥漏斗	ジョウゴ	コエダルにさして、下肥、水を入れた。	羽1_D020_080図-ジョウゴ
草刈鎌	ナタガマ	落ち葉掃きするとき、下草を刈った。	羽1_D021_081図-ナタガマ
背負籠	ハチホンバサミ	下草や落ち葉、桑の葉を入れて運ぶ籠。大きな背負い籠。	羽1_D022_083図-ハチホンバサミ
鋸鎌	ノコギリガマ	景品で受領。下田家は、水田がないので使用せず。	羽1_D025_071図-ノコギリガマ
鎌	ムギカリガマ	麦類や草を刈った。	
鎌差し	カマサシ	鎌をさして収納するもの。	羽1_D027_085図-カマサシ
千歯扱き	センバコキ	脱穀道具。	羽1_D028_084図-センバコキ
足踏脱穀機	リンテンキ	別名ダツコキ。銘「新築特許橋樹郡生田村」	
篩	アワブルーイ	粟、小麦、茶の選別に使用。	羽1_D030_089図-アワブルーイ
	ムギブルーイ	大麦の選別に使用。	羽1_D031_090図-ムギブルーイ
横杵	杵	大麦のノゲをおとすのに使用した。横杵。自家製。	羽1_D032_087図-キネ
唐棹	クルリボウ	麦のノゲおとし。棒打ちする。	羽1_D033_086図-クルリボウ
箕	ムギミ	大麦、陸稲の選別。芯にさくらの皮を使用。さくらの皮はたてにむくので幅広となり、網目も大きくなるので、大きなゴミをあおり出すのに都合がよい。サクラミともいう。	羽1_D034_088図-ミ
	フジミ	ふじの皮が細くしか裂けないので、箕の編目が細くなり、粉物に都合がよいため、コナミともいう。	
荷縄	ニナワ	荷車用。	
押切	オシギリ	薬・雑草を切った。	
藁叩き槌	ツチ	薬を打つ用具。	
E. 漁撈用具			
たも網	サデ	とった魚をすくう小さな柄付きの網。名前はサデだが、網を張った枠は切れ目のない円形。	羽1_E001_095図-サデ
網	ビク	魚が飛び出さないように魚を入れた箱にかぶせた網。	
釜	テンノドウ	ハヤを主にとった箱型のドウ。	羽1_E011_100図-テンノドウ
	ドウ	スと一緒に使用。2つの円錐形の釜が繋がったような形のものがある。	羽1_E004_091図-ドウ 羽1_E004_092図-ドウ 羽1_E004_093図-ドウ
簀	ス	ドウとともに川にはって魚をとった。	羽1_E010_094図-ス

名 称	羽村での名称	説 明	画像ファイル名
築	ヤナズ	川にかけて魚をとった。	羽1_E003_096図-ヤナズ
漁網	ヘヤアミ	上り鮎をとるヘヤを作るための網。ドウとともに使用。	羽1_E005_097図-ヘヤアミ 羽1_E005_098図-ヘヤアミ
	マスアミ	鱒をとった網糸製の網。多摩川のよどみで使用。	羽1_E013_099図-マスアミ
F. 養蚕用具			
種紙入れ	タネガミサシ	蚕の卵を産ませたタネガミをこの中に差して保管した。	羽1_F001_131図-タネガミサシ
種紙	ワクセ	タネガミともいう。枠の中に蚕の卵を産ませる。	羽1_F002_101図-ワクセ
掃立箒	トリッパネ	たかの羽根4枚をまだけや孟宗竹にさしこんで、トウでまいてしめたもの。ワクセの蚕種を掃きたてる。蚕種が毛蚕になったときが掃きたて時期。別名ハネボウキ。	羽1_F003_102図-トリッパネ
ろう紙	ロウガミ	掃き立てから10日ぐらい蚕座にしいた。	
蚕網	ワケアミ	蚕座を広げるときに使う網。木綿糸に柿渋を塗ってある。蚕が大きくなると蚕座が狭くなるので、ワケアミ2枚を並べて敷いて蚕をのせ、カイコッカゴ1枚にワケアミ1枚ずつ移していった。	羽1_F007_103図-ワケアミ
	イトアミ		羽1_F009_104図-イトアミ
	アミ	蚕座にしく網網の一種でチガヤ製。オオドマリ(大眠)のときに使用。	羽1_F011_105図-アミ(チガヤ)
蚕蓆	カイコムシロ	蚕座にしく。カイコッカゴの上にサンザシ、カイコムシロの順にしいた。ヤトウときにも使う。	羽1_F012_106図-カイコムシロ
蚕座紙	サンザシ	カイコッカゴ、アシコノメの上にしいた。	
蚕籠	カイコッカゴ	蚕座になるもので、この上にサンザシをして、桑をのせサシダンにさしこんで飼育した。	羽1_F014_109図-カイコッカゴ
蚕座	アシコノメ(大)	蚕をやとうときの蚕座。上にマブシをのせ、繭をつくらせた。アシがあるので、重ねて使うことができる。ベタ飼いに使用するときもある。	羽1_F015_108図-アシコノメ
	アシコノメ(小)	蚕をやとうときの蚕座。上にマブシをのせ、繭をつくらせた。アシがあるので、重ねて使うことができる。ベタ飼いに使用するときもある。	羽1_F016_107図-アシコノメ
蚕棚	サシダン	サシダン5枚、ダイ4枚、サオ26本で1組とし、カイコッカゴを入れる蚕の棚を作った。棚は13段できるが、実際には上段を使わず、10段くらい使った。	羽1_F017_110図-サシダン・カイコッカゴ見取図
篩	フルイ	蚕のおしっこを乾かすために、石灰をフルイでふるった。	羽1_F019_113図-フルイ
桑切り鎌	クワキリガマ	桑の枝を切るのに使用。養蚕は桑を枝のままとってきた。	羽1_F020_111図-クワキリガマ
桑扱	クワコキ	枝から切ってきた桑の葉をこぐ道具。	羽1_F022_115図-クワコキ
桑摘籠	カマザル	摘んだ桑を入れたザル。肩からななめにひもでさげた。	羽1_F023_114図-カマザル
桑籠	クサカリカゴ	カマザルに入れた桑がいっぱいになるとクサカリカゴにあげ、テグルマに積んで家に運んだ。	羽1_F024_117図-クサカリカゴ
桑切り包丁	クワキリキ	二～三齢の蚕にはさざんだ葉を与える。葉をさざむ道具。	羽1_F025_119図-クワキリキ
笊	ザル	クワキリキでさざんだ桑を入れ、蚕に給桑した。クワクレザルともいう。	羽1_F026_118図-ザル
給桑台	キュウソウダイ、クワクレダイ	蚕に桑をくれるとき、カイコッカゴをのせておく台。別名クワクレダイ。	羽1_F028_120図-キュウソウダイ
寒温計	カンダンケイ	蚕室の温度調節に使用。摂氏マイナス20～50度。華氏0～120度。温暖育の飼育法が羽村に導入されたのは、明治20年代。	
練炭	レンタン	蚕室の暖房用練炭。主に稚蚕のとき使用。養蚕組合が配給した。	羽1_F031_121図-レンタン
蚕盆	カイコッキバチ	とちのきで作ったキバチで、トチキバチともいう。蚕が上簇しはじめるときに、蚕座から簇に移すときにひろって入れた容器。	羽1_F032_122図-カイコッキバチ
簇	セントウマブシ	蚕を上簇させる用具。1枚のセントウマブシの中に千頭の蚕が繭を作るところから命名されたという説もある。	羽1_F034_123図-セントウマブシ
回転簇	カイトンマブシ	蚕を上簇させる用具で、セントウマブシ以後の簇である。カイトンマブシ10枚で1組として枠に設定し、カイトンマブシノカギで天井から吊るし、蚕をやとった。	羽1_F035_124図-カイトンマブシ 羽1_F035_127図-カイトンマブシ組合せ図 羽1_F039_128図-カイトンマブシのカギ 羽1_F039_129図-カイトンマブシのカギ
毛羽取り機	マユカキキ	繭のけばをとる用具。	羽1_F043_133図-マユカキキ
燭台	ショクダイ	停電したときに、ろうそくをたてて、蚕室の明りとりに使った。	羽1_F044_130図-ショクダイ
荷縄	ニナワ	桑の皮を材料とした縄で、サシダンをしばった。自家製品。	
G. 紡織用具			
製糸用具			
繭箒	モロコシボウキ	煮た繭からイトクチをこれにからんでだした。モロコシ製。	羽1_G001_134図-モロコシボウキ
笊	イトクチヲスクウザル	繭のイトクチをすくったザル	羽1_G002_135図-イトクチヲスクウザル
	カラシザル	煮た繭をからして(乾燥)おくザル。繭から糸をとるとき、繭を煮たが、糸をとり終わらず、残った繭は鍋からあげておいた。	羽1_G003_136図-カラシザル
糸枠	ワク	繭からとった糸を、ザクリにかけたワクに巻き取っていった。	羽1_G004_137図-ワク
揚枠	アゲワク	ワクにとった糸をイトアゲグルマを使ってアゲワクに巻き取った。	羽1_G008_138図-アゲワク 羽1_G008_140図-イトアゲグルマ・アゲワク組合せ図
糸揚車(滑車)	イトアゲグルマ	アゲワクに糸を巻き取るときの滑車。	羽1_G009_139図-イトアゲグルマ

名称	羽村での名称	説明	画像ファイル名
糸	シマダイト	上繭からとった絹糸。アゲクワから外した形が島田髪に似ているところから名づけられた。よこ糸にもたて糸にも使った。よそゆきの着物を織った。	
	タマイト	玉繭(2匹の蚕が作った1つの繭)からとった糸。ふしのある太い糸になる。よこ糸にもたて糸にも使う。織った布も厚地で、ふしができる。	
	シケイト	繭のまわりの悪いところからとった糸。よこ糸に使う。	
	ガスイト	木綿糸でよりがかけてある。よこ糸にする。	
	モメント	のりづけした木綿糸。たて糸にする。	
	チヂミイト	木綿糸でちぢみになっている。よこ糸にする。	
紡ぎ車	クダマキグルマ	タテクダ、ヨコクダに糸を巻き取る用具。自転車の車輪利用。	羽1_G016_143図-クダマキグルマ
ふわり	フワリ	クダに糸を巻く用具。シマダイトをフワリにかけ、クダマキグルマのツムにさしたタテクダまたはヨコクダに、クダマキグルマをまわしながら糸を巻いていった。	羽1_G017_141図-フワリ
管	タテクダ	しのだけを利用した管で、たて糸を巻き取る。たて糸はよりをかけないでいい。	羽1_G018_144図-タテクダ
	ヨコクダ	しのだけを利用した管で、よこ糸を巻きとった。よこ糸はよりをかけてから巻いた。ヨコクダは杵に入れて機を織った。	羽1_G019_145図-ヨコクダ
管箱	クダバコ	タテクダ、ヨコクダなどの小さい機道具を入れた箱。	羽1_G020_146図-クダバコ
整経用具			
整経	ハタヘ	ハタヘとは、機にかけるたて糸の長さを決める作業をいう。ザラベの穴にタテクダを通したヒゴをさしておく、タテクダがまわり、ヘダイにかけるとき、たて糸がほぐれる。タテクダは、ザラベの上段、下段交互に48本さしておく。	羽1_G022_149図-ザラベ・ヘダイ組合せ図
ひご	ヒゴ	タテクダを通してザラベにさした。	羽1_G021_150図-ヒゴ
大管立	ザラベ	ヒゴをさしておいた。	羽1_G022_147図-ザラベ
経台	ヘダイ	経糸の長さを決めた。	羽1_G023_148図-ヘダイ
綾糸を組む台	アヤイトヨクムダイ	アヤにかけたアヤイトをとりかえる用具。	羽1_G024_151図-アヤイトヨクムダイ・アヤ
機織用具			
高機	ハタアシ	機織機械で高機。木綿、絹物を織った。材質や糸の太さにより、オサをとりかえておった。付属品：オマキ、ヤツハ、ショモク、マキグシ、トリイ、オサ、オサズカ、オサヒキ、アヤ、アヤリボウ、アヤボウ、フミボウ、トリイ、オリキレボウ、チマキ、コシイタ	羽1_G025_152図-ハタアシ
	オマキ	たて糸を巻いておくもの。	
	ヤツハ	オマキを回転させる歯車。	
	シュモク	ヤツハにさしこみ、回転させるもの。	
	マキグシ	たて糸を櫛状のところにに入れて糸の乱れを防ぐもの。	
	トリイ	引き杼用のオサズカ。オサをセットしておくもの。	
箄	オサ	たて糸を通し織っていくもの。	
	オサズカ	オサを固定するもの。	
	オサヒキ	引き杼用以前のオサズカを支えた。	
	オサワク	引き杼用以前のオサズカを支えた。	
綾	アヤ	たて糸を上下させるもの。	
	アヤツリボウ	アヤを上からつっpegおく棒。	
	フミボウ	足で踏んで、ハタアシを操作するもの。	
	チマキ	織った布を巻きとる。	
箄通し	オサトウシ	オサに糸を通すときの用具。	羽1_G041_156図-オサトウシ
	チマキの布をおさえる棒	布を織りはじめるとき、チマキに布を固定させるために、布の間にに入れる棒。	羽1_G026_157図-チマキの布をおさえる棒
	ハタクサ	オマキにたて糸を巻くとき、間に入れて、糸の乱れを防ぐ。	羽1_G027_158図-ハタクサ
綾棒	アヤボウ	アヤの乱れを防ぐために、たて糸の間に入れた。	羽1_G028_159図-アヤボウ
杼	ヒ	イザリバタ用は幅が広く、引き杼用のヒは幅が狭く車がついていてすべりやすい。緯糸を巻いたヨコクダを入れて、緯糸に通す道具。	羽1_G029_160図-ヒ 羽1_G029_161図-ヒ 羽1_G029_162図-ヒ
機針	シンシ	織った布がピンと張っているように、布にうった。	羽1_G044_163図-シンシ 羽1_G044_164図-シンシ
箱	ハコ	ハタクサなどの機道具を入れた。	
機火鉢	ハタヒバチ	機の下において、機織りのとき、暖をとった	羽1_G047_165図-ハタヒバチ
H. 諸職用具			
馬方用具			
轡	アゲハズナ	馬の口をおさえる鉄環。	
荷鞍	ニグラ	荷車を挽かせたり荷物を積んだりした。	羽1_H002_166図-ニグラ
荷縄	ニナワ	荷物をしばる麻製のナワ。	
石起こし鎌	イシオコシガマ	川原で砂利や石を掘って運搬したときの道具。トビのような形。	羽1_H005_171図-イシオコシガマ
鋤簾	ジョレン	多摩川の砂利をすくった。	羽1_H006_170図-ジョレン

名称	羽村での名称	説明	画像ファイル名
束子	タワシ	馬の体を洗った。	羽1_H009_169図-タワシ
飼葉桶	カイバオケ	携帯用。	羽1_H010_167図-カイバオケ
小田原提灯	オダワラヂョウチン	馬を引く時に使用。	羽1_H011_168図-オダワラヂョウチン
大工用具			
墨壺	スミツボ		羽1_H012_172図-スミツボ
目立て挟み板、のこぎりはさみ	ノコギリノメタテハサミイタ		羽1_H016_174図-ノコギリノメタテハサミイタ
廻挽鋸	マワシビキ	ノコギリ。巾は狭く、先になるにつれて細い。	羽1_H017_175図-マワシビキ
両刃鋸	ダイクノコギリ	両歯で目の大きさが異なる	羽1_H019_176図-ダイクノコギリ
枝落とし	コノコギリ	カーブした形。枝落としに使用。	羽1_H020_177図-コノコギリ
曲尺	サシガネ	真鍮製。	羽1_H021_178図-サシガネ
	ツボ	さび止めの布を挿入する。鉄の輪状。	羽1_H022_179図-ツボ
縦挽鋸	コビキノコ	木挽。縦挽き。	
横挽鋸	マキヒキノコギリ	横挽。	
釘抜き	パール	釘抜き。	
手板	テイタ	左官用具。こねた土をのせる。	
庭木の手入れ			
剪定鋏	センテイバサミ	庭木の剪定に使った。	羽1_H027_180図-センテイバサミ
小刀	コガタナ	自家製品。きりだしこがたな。接木に使用。	羽1_H028_181図-コガタナ
植木鋏	ハサミ	盆栽用のはさみ。真鍮製。	羽1_H030_182図-ハサミ
I. 交通・運搬用具			
大八車	テグルマ	落ち葉を入れたハチホンバサミや畑の作物の運搬に使った。	羽1_I001_184図-テグルマ
手鉤	テカギ	俵などの重い物を持ち上げるとき、俵にさしてかつく用具。	羽1_I002_185図-テカギ
笠	カサ	日除け・雨除け用。カラカサ状の構造で、折り畳める被り笠。旅行用。	羽1_I003_183図-カサ
小田原提灯	オダワラヂョウチン		
J. 交易用具			
看板	カンバン	明治時代に本家で機業をしていたときの看板。	羽1_J001_186図-カンバン
箱	ハコ	当家の本家がタバコなどを売っていたときの商売用の箱。	
算盤	ソロバン	五つ玉。	羽1_J004_190図-ソロバン
銭箱	ゼニバコ	銭箱。	羽1_J005_191図-ゼニバコ
巾着	キンチャク	お金入れ。	羽1_J006_187図-キンチャク
木版	モクハン	茶を売ったときに使った商標の木版。	羽1_J008_188図-モクハン
籠	カゴ	出荷野菜用。	羽1_J009_189図-カゴ
K. 社会生活用具			
拍子木	ヒョウシギ	夜番で火の用心のためにたたいてまわった。	羽1_K001_193図-ヒョウシギ
焼印	ヤキイン	家印。袖の焼印とは異なるものと思われる。	羽1_K002_192図-ヤキイン
L. 信仰用具			
荒神様	コウジンサマ	火除けの神様。カマドの上の火棚に飾ってあった。	羽1_L001_217図-コウジンサマ
年神様	トシガミサマ	神棚の向かって右側においてあった厨子。	羽1_L002_202図-トシガミサマ
戎様	エベスサマ	商売繁盛・家内安全の神様であるエベス・ダイコクサマのヒノキの像。厨子に入れて祀られた。	羽1_L004_218図-エベスサマ 羽1_L004_219図-エベスサマ 羽1_L004_220図-エベスサマ
御膳	オゼン	歳神様に元旦の朝、オソナエをあげた膳。ベニヤ板に藁束をつけ、ハイソクを立てる簡易的なもの。	羽1_L003_214図-オゼン
大神宮様	ダイジゴサマ	厨子に太神宮お札など163枚入る。神棚にあった。	羽1_L005_205図-ダイジゴサマ
社	ヤシロ	神棚に向かって左側の祠。神の名は不明。	羽1_L006_206図-ヤシロ
痘瘡神様	ホウソウガミサマ	カッテのヘヤ側に東向きの棚に祭っていた。	羽1_L007_222図-ホウソウガミサマ
神酒の口	ミキノクチ	オミキスズに入れる竹製の飾り。ダキミョウガ、ホウシノタマ、タカラブネミツダマ	羽1_L008_209図-ミキノクチ (ダキミョウガ) 羽1_L009_210図-ミキノクチ (ホウシノタマ)
御神酒錫	オミキスズ	ミキノクチをさして、神棚に供えたもの。中に酒を入れた。	羽1_L011_207図-オミキスズ 羽1_L011_208図-オミキスズ
御幣	ハイソク	春祭である天王様の日に神社からもらったもの。	羽1_L015_215図-ハイソク
御幣立て	ハイソクタテ	藁製。正月の幣束をたてるもので、床の間に飾った。	羽1_L016_216図-ハイソクタテ
ひょうそく秉燭	ヒョウソク	この中に食用油を入れ、中心に灯芯をおいて火をつけ、仏壇にオトウミョウとしてあげた。	
灯明台	トウミョウダイ	この上にヒョウソクをのせてあかりをつけた。	羽1_L022_221図-トウミョウダイ
灯明皿	トウミョウザラ	昭和45年ごろまで使った。神棚にあげる灯明用の皿。別名トウゲザラ。	羽1_L019_225図-トウミョウザラ
灯明皿の下皿	トウミョウザラノシタザラ	陶製。高杯状。	羽1_L023_224図-トウミョウザラノシタザラ

名称	羽村での名称	説明	画像ファイル名
団扇	カラスウチワ	府中市の大国魂神社で出す魔除け用のウチワ。カラスの図柄。	羽1_L026_227図-カラスウチワ
	ウチワ	埼玉県東松山市岡の馬頭様のウチワで、魔除けとして馬頭講の代参者が配ったもの。打出のこづちの図柄。	羽1_L028_226図-ウチワ
達磨	ダルマ	一年中寝ることなく働けるように願って、青梅のだるま市で買った。	羽1_L030_223図-ダルマ
札立て	フダタテ	お札をはさんで神棚にあげておいたもの。	羽1_L032_213図-フダタテ
御札	オフダ	ダイコジサマの中に入っていた。	
奠座	ゴザ	盆棚に敷く。	
鉢	ドンブリ	盆棚に里芋(昔は蓮)の葉をしいて水を入れて供えた。ミズアゲバチともいう。	羽1_L156_228図-ドンブリ
掛軸	オヒョウゴ	掛軸。	羽1_L135_229図-オヒョウゴ 羽1_L146_236図-オヒョウゴ
M. 民俗知識用具			
水滴	ミズサシ	硯で墨をするときの水差し。	羽1_M001_241図-ミズサシ 羽1_M002_242図-ミズサシ
石板	セキバン	明治時代に小学校で使用。	羽1_M003_243図-セキバン
本箱	ホンバコ		羽1_M005_244図-ホンバコ
火吹竹	ヒフキダケ	火難よけに神棚にあげた。	
曆	コヨミ		羽1_M009_240図-コヨミ
N. 娯楽用具			
植木鉢	ウエキバチ	小型の陶器。	羽1_N001_245図-ウエキバチ 羽1_N001_246図-ウエキバチ
O. 年中行事用具			
膳	オゼン	漆塗り。親碗、汁椀、オヒラ、ツボなどをのせて供えた。	羽1_O001_247図-オゼン
掛軸	オヒョウゴ	節句祝いの図柄。掛軸状。	羽1_O007_248図-オヒョウゴ

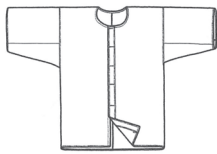
衣生活用具



羽1_A001_018図-スゲガサ



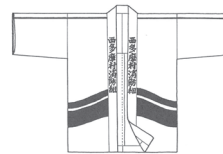
羽1_A004_001図-ボウシ



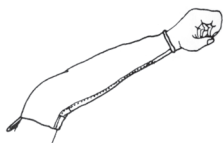
羽1_A007_004図-シャツ



羽1_A009_002図-シャツ



羽1_A010_005図-シルシバンテン



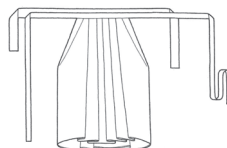
羽1_A011_006図-テッコウ



羽1_A012_007図-ヒジアテ



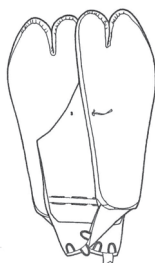
羽1_A013_003図-モモヒキ



羽1_A014_008図-ハカマ



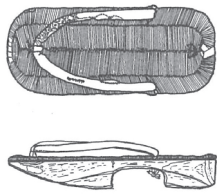
羽1_A016_009図-キャハン



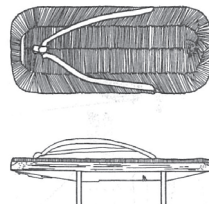
羽1_A018_010図-タビ



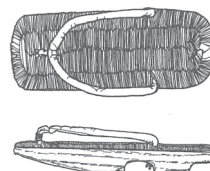
羽1_A019_011図-ワラジ



羽1_A021_013図-トコツキアトマル



羽1_A022_012図-アズマゲタ



羽1_A025_014図-トコツキゲタ

衣生活用具【雨具、防寒、日除け用具】



羽1_A026_016図-セナカミノ

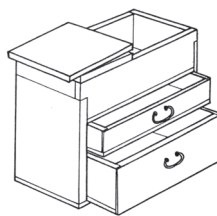


羽1_A027_017図-ミノ



羽1_A006_019図-ヒガサ

衣生活用具
【裁縫、洗濯用具】

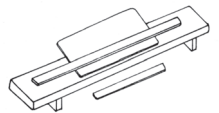


羽1_A030_015図-ハリバコ

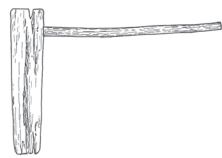
食生活用具
【調理・調整用具】



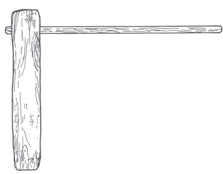
羽1_B007_020図-マナイタ



羽1_B008_021図-モチキリジョウキ



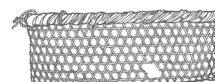
羽1_B010_022図-キネ



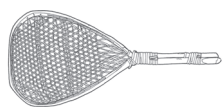
羽1_B011_023図-キネ



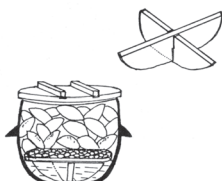
羽1_B072_024図-カタkker



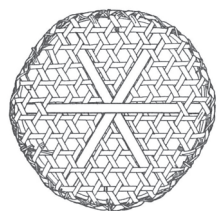
羽1_B074_026図-ウデアサル



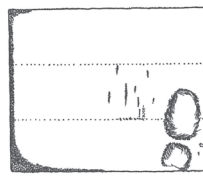
羽1_B077_025図-テスクイ



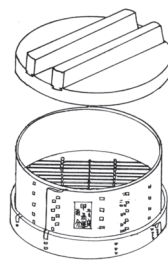
羽1_B082_029図-シタグラ



羽1_B082_031図-シタグルワ



羽1_B082_032図-ユギノ

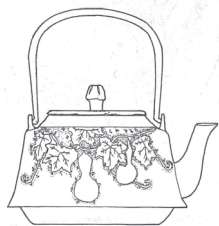


羽1_B083_028図-コシキ・フタ・ス

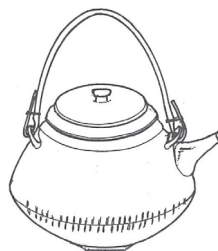
食生活用具【飲食用具】



羽1_B029_042図-テツピン



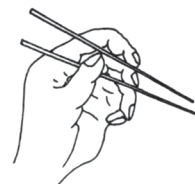
羽1_B030_043図-テツピン



羽1_B032_045図-ドピン



羽1_B037_044図-キュウス



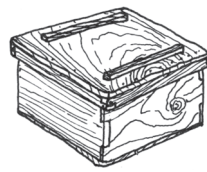
羽1_B041_037図-ハシ



羽1_B050_040図-サラ



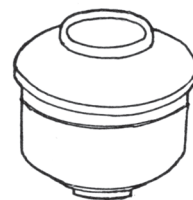
羽1_B053_041図-オテシヨ



羽1_B058_055図-ハコゼン



羽1_B045_049図-オヤワン



羽1_B046_051図-ツボ

食生活用具【嗜好品用具】



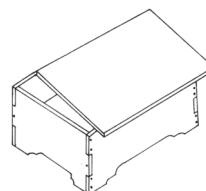
羽1_B047_053図-オヒラ



羽1_B061_047図-オボン



羽1_B068_056図-ジュウバコ

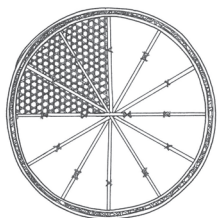


羽1_B070_057図-ジュウバコ

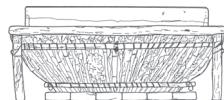


羽1_B026_046図-オチョコ

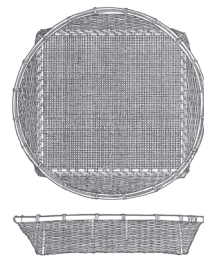
食生活用具【醸造・製造用具(製茶用具)】



羽1_B084_030図-チャブカシノス



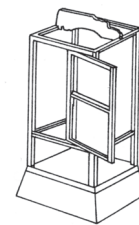
羽1_B085_035図-ホイロ組合せ図



羽1_B087_038図-チャブレイ

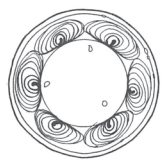


羽1_B089_039図-ホウキ

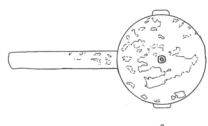


羽1_C001_059図-アンドン

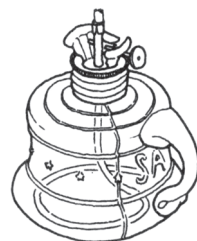
住生活用具



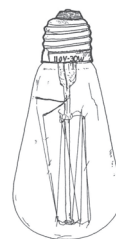
羽1_C002_062図-アンドンノシタザラ



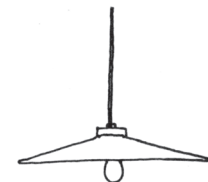
羽1_C003_061図-テシヨク



羽1_C004_060図-マメランプ

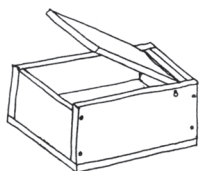


羽1_C006_063図-デンキユウ

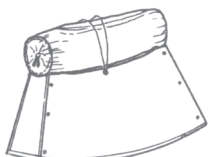


羽1_C007_064図-デンキユウノカサ

住生活用具【屋根葺き用具】

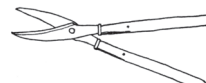


羽1_C009_066図-マッチバコ



羽1_C020_065図-ハコマクラ

羽1_C016_067図-ハリ



羽1_C017_068図-ハサミ



羽1_C018_069図-コテ

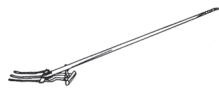
農耕用具



羽1_D001_070図-ヒョウタン



羽1_D005_073図-フンガア



羽1_D006_074図-サンボンフンガア



羽1_D007_076図-ヒラックワ



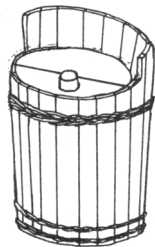
羽1_D009_072図-ツックイボウ



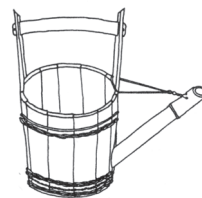
羽1_D013_077図-ケレン



羽1_D014_082図-マンガア



羽1_D015_079図-コエダル



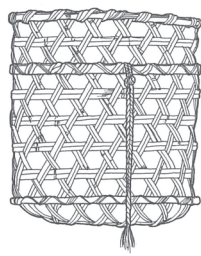
羽1_D019_078図-ウトウ



羽1_D020_080図-ジョウゴ



羽1_D021_081図-ナタガマ



羽1_D022_083図-ハチホンバザミ



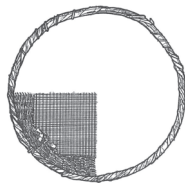
羽1_D025_071図-ノコギリガマ



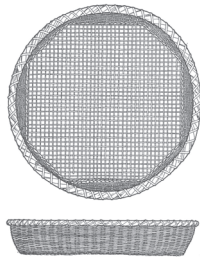
羽1_D027_085図-カマサシ



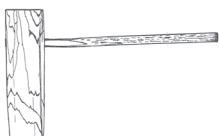
羽1_D028_084図-センバコキ



羽1_D030_089図-アワブレイ



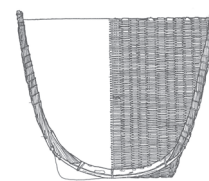
羽1_D031_090図-ムギブレイ



羽1_D032_087図-キネ

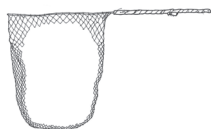


羽1_D033_086図-クルリボウ

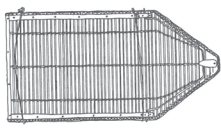


羽1_D034_088図-ミ

漁撈用具



羽1_E001_095図-サデ



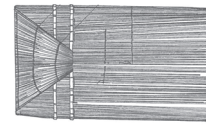
羽1_E011_100図-テンンドウ



羽1_E004_091図-ドウ



羽1_E004_092図-ドウ



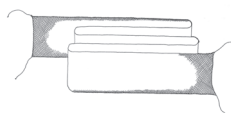
羽1_E004_093図-ドウ



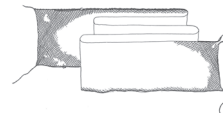
羽1_E010_094図-ス



羽1_E003_096図-ヤナズ



羽1_E005_097図-ヘヤアミ

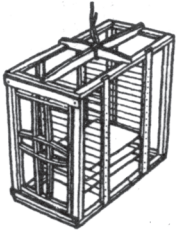


羽1_E005_098図-ヘヤアミ



羽1_E013_099図-マスアミ

養蚕用具



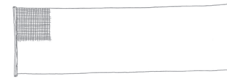
羽1_F001_131図-タネガミサシ



羽1_F002_101図-ワクセ



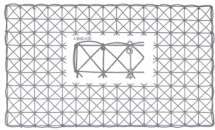
羽1_F003_102図-トリツパネ



羽1_F007_103図-ワケアミ



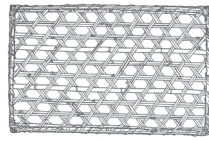
羽1_F009_104図-イトアミ



羽1_F011_105図-アミ(チガヤ)



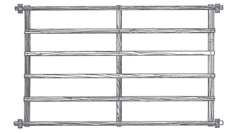
羽1_F012_106図-カイコムシロ



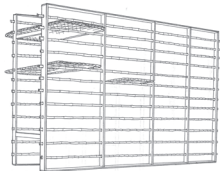
羽1_F014_109図-カイコカゴ



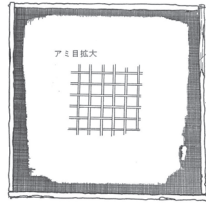
羽1_F015_108図-アシコノメ



羽1_F016_107図-アシコノメ



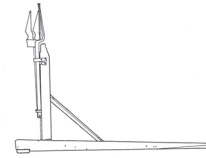
羽1_F014_110図-サシダン・カイコカゴ見取図



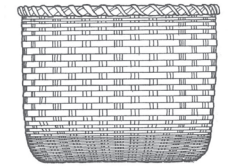
羽1_F019_113図-フルイ



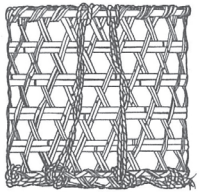
羽1_F020_111図-クワキリガマ



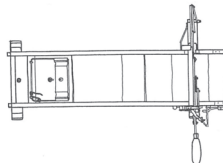
羽1_F022_115図-クワコキ



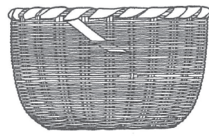
羽1_F023_114図-カマザル



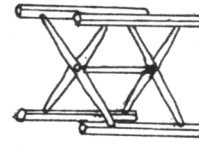
羽1_F024_117図-クサカリカゴ



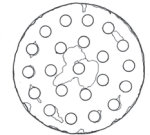
羽1_F025_119図-クワキリキ



羽1_F026_118図-ザル



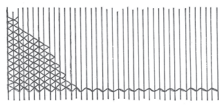
羽1_F028_120図-キュウソウダイ



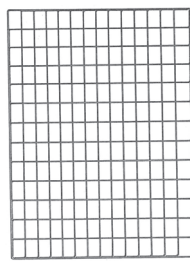
羽1_F031_121図-レンタン



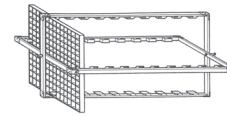
羽1_F032_122図-カイコツキバチ



羽1_F034_123図-セントウマブシ



羽1_F035_124図-カイテンマブシ

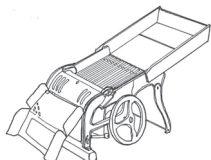


羽1_F035_127図-カイテンマブシ組合せ図

羽1_F039_128図-カイテンマブシのカギ

紡織用具【製糸用具】

羽1_F039_129図-カイテンマブシのカギ



羽1_F043_133図-マユカキキ



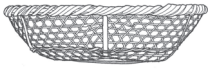
羽1_F044_130図-ショクダイ



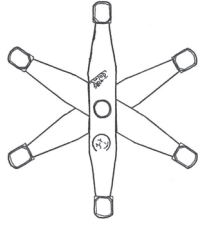
羽1_G001_134図-モロコシボウキ



羽1_G002_135図-イトクチャラスクウザル



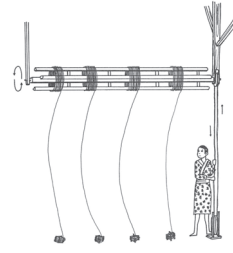
羽1_G003_136図-カラシザル



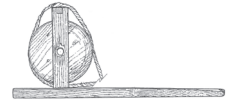
羽1_G004_137図-ワク



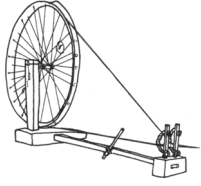
羽1_G008_138図-アゲワク



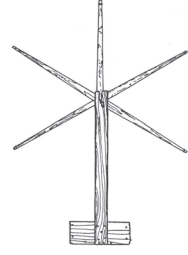
羽1_G008_140図-イトアゲルマ・アゲワク組合せ図



羽1_G009_139図-イトアゲルマ



羽1_G016_143図-クダマキグルマ



羽1_G017_141図-フワリ



羽1_G018_144図-タテクダ

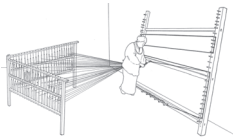


羽1_G019_145図-ヨコクダ



羽1_G020_146図-クダハコ

紡織用具【整経用具】



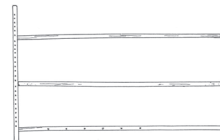
羽1_G022_149図-サラベ・ヘダイ組合せ図



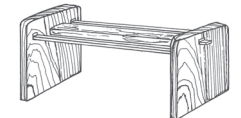
羽1_G021_150図-ヒゴ



羽1_G022_147図-サラベ

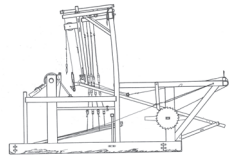


羽1_G023_148図-ヘダイ



羽1_G024_151図-アヤイトラクムダイ・アヤ

紡織用具【機織用具】



羽1_G025_152図-ハタアシ



羽1_G041_156図-オサトウシ



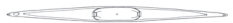
羽1_G026_157図-チマキの布をおさえる棒



羽1_G027_158図-ハタクサ



羽1_G028_159図-アヤボウ



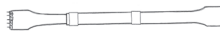
羽1_G029_160図-ヒ



羽1_G029_161図-ヒ



羽1_G029_162図-ヒ



羽1_G044_163図-シンシ

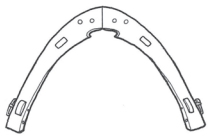


羽1_G044_164図-シンシ

諸職用具【馬方用具】



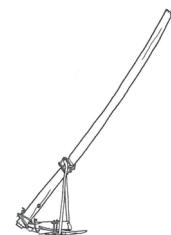
羽1_G047_165図-ハタヒバチ



羽1_H002_166図-ニグラ



羽1_H005_171図-イシオコシガマ



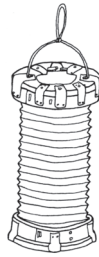
羽1_H006_170図-ジョレン



羽1_H009_169図-タワシ



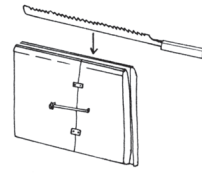
羽1_H010_167図-カイベアケ



羽1_H011_168図-オダワラチョウチン



羽1_H012_172図-スミツボ



羽1_H016_174図-ノコギリノメタテハサミイタ



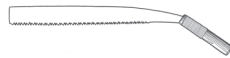
羽1_H017_175図-マワシビキ

諸職用具【大工用具】

諸職用具【庭木の手入れ】



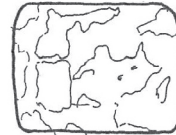
羽1_H019_176図-ダイクノコギリ



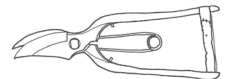
羽1_H020_177図-コノコギリ



羽1_H021_178図-サシガネ



羽1_H022_179図-ツボ

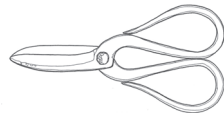


羽1_H027_180図-センチバサミ

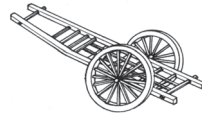
交通・運搬用具



羽1_H028_181図-コガタナ



羽1_H030_182図-ハサミ



羽1_I001_184図-テグルマ



羽1_I002_185図-テカギ

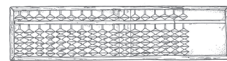


羽1_I003_183図-カサ

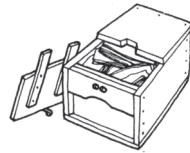
交易用具



羽1_J001_186図-カンバン



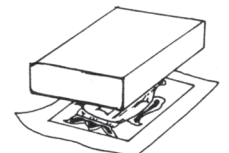
羽1_J004_190図-ソロバン



羽1_J005_191図-ゼニバコ



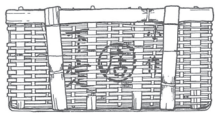
羽1_J006_187図-キンチャク



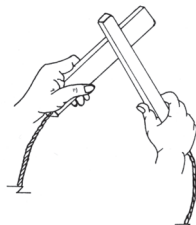
羽1_J008_188図-モクハン

社会生活用具

信仰用具



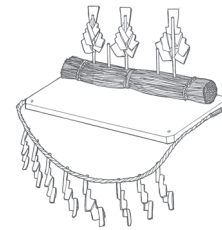
羽1_J009_189図-カゴ



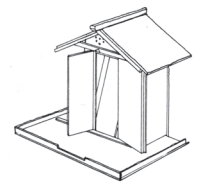
羽1_K001_193図-ヒョウシギ



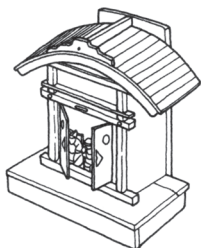
羽1_K002_192図-ヤキイン



羽1_L001_217図-コウジンサマ



羽1_L002_202図-トシガミサマ



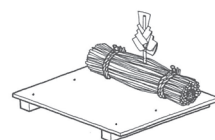
羽1_L004_218図-エベスサマ



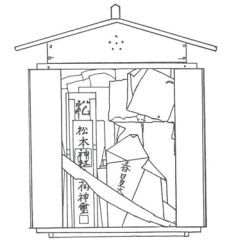
羽1_L004_219図-エベスサマ



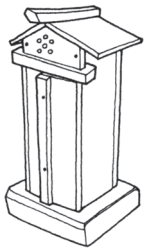
羽1_L004_220図-エベスサマ



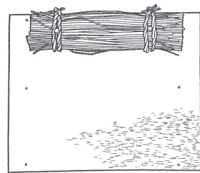
羽1_L003_214図-オゼン



羽1_L005_205図-ダイジゴサマ



羽1_L006_206図-ヤシロ



羽1_L007_222図-ホウソウガミサマ



羽1_L008_209図-ミキノクチ(ダキミヨウガ)



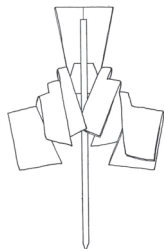
羽1_L009_210図-ミキノクチ(ホウシノタマ)



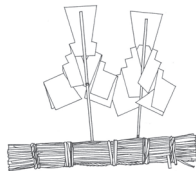
羽1_L011_207図-オミキスズ



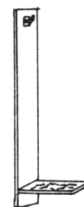
羽1_L011_208図-オミキスズ



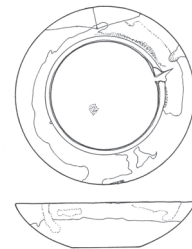
羽1_L015_215図-ヘイソク



羽1_L016_216図-ヘイソクタテ



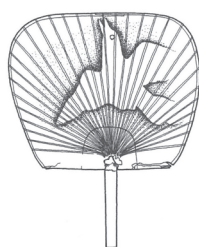
羽1_L022_221図-トウミヨウダイ



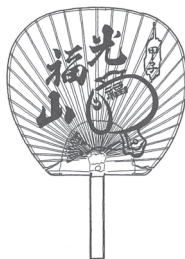
羽1_L019_225図-トウミヨウザラ



羽1_L023_224図-トウミヨウザラノシタザラ



羽1_L026_227図-カラスウチワ



羽1_L028_226図-ウチワ



羽1_L030_223図-ダルマ



羽1_L032_213図-フダタテ



羽1_L156_228図-ドンブリ



羽1_L135_229図-オヒョウゴ



羽1_L146_236図-オヒョウゴ

民俗知識用具

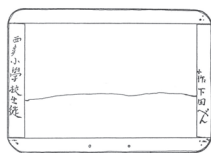


羽1_M001_241図-ミズサン

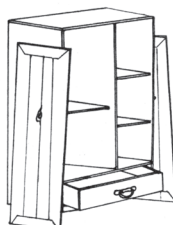


羽1_M002_242図-ミズサン

娯楽用具



羽1_M003_243図-セキバン
年中行事用具



羽1_M005_244図-ホンバコ



羽1_M009_240図-コヨミ



羽1_N001_245図-ウエキバチ



羽1_N001_246図-ウエキバチ



羽1_0001_247図-オゼン



羽1_0007_248図-オヒョウゴ

羽村の民具

神野善治

本項の「民具名一覧表」は、東京都羽村市郷土博物館が保存管理している重要有形民俗文化財の「羽村の民家（旧下田家）とその生活用具」から選択させていただいたものである。このコレクションに関する報告書である『羽村の民家（旧下田家）とその生活用具—民具編—』⁽¹⁾をもとに作成した。

日本全国の民具名を比較できるような一覧表の項目に、関東地方で適切な情報を提供できるコレクションを検討したところ、羽村のコレクションは、この地方の1棟の民家とともに、この家で使われてきた江戸期以来の生活用具が一括収集されており、衣食住関係の用具から農耕用具を中心に生産関係用具、信仰・儀礼関係用具と多岐にわたっている。

新潟県の奥三面の民具に関する解説でも紹介したとおり、民具の名称と実物資料が特定できており、名称だけが独り歩きすることがなく、当該民具の使用場面や使用方法などが記録され、必要に応じて実物を見ることも可能であるという、本プロジェクトがめざす基本的な資料の条件を満たしている。またプロジェクトの体制と時間の制約の中で、対応可能なボリュームであったこと、そして何よりも管理者である羽村市教育委員会のご理解が得られたことが選択の理由である。

この指定物件は、民家1棟および民具1,209点で、その内訳は、衣生活33点、食生活143点、住生活23点、農耕38点、漁撈17点、養蚕358点、紡織193点、諸職30点、交易15点、信仰302点、民俗知識35点、その他22点と、それぞれの数は多くはないが、一軒の農家の暮らしが実に多様な民具により成り立っていたことをよく示している。

特に養蚕関係の民具が充実している。羽村は西多摩地方の養蚕の中心地であったことと、下田家は昭和40年までと、比較的遅くまで蚕を飼っていたことを反映している。

収集地は、東京都の多摩地区西部に位置し、武蔵野台地の西端、多摩川の河岸段丘上にあつて、明治時代は西多摩村と呼ばれ、1956（昭和31）年の町制施行により西多摩郡羽村町となり、1991（平成3）年の市制施行で羽村市となった。生業の中心は台地上の畑作で、近代以後は養蚕が盛んに行われていた。水田の稲作も多摩川流域の一部で行われてはいたが、旧下田家では行っていなかった。

また、一覧表には取り上げなかったが、江戸期以来の多くの神札・神仏の表具類や江戸暦なども残されており、この家の信仰・儀礼の側面もよく伝えている。

なお、『羽村の民家（旧下田家）とその生活用具—民具編

—』には、主な資料の実測図が掲載されており、本プロジェクトの報告書にも、教育委員会の許可をいただき、その見取図と、側面や正面の図の一部を掲載させていただくことができた。この場を借りて改めて、関係各位に御礼申し上げます。民具の名称と照らし合わせて図を参照できるものになった。

上記のように、羽村のコレクションは規模は小さいものながら、とても充実したものであるが、この事例をもって、関東地方の全体の民具を代表させることができないことは言うまでもない。それでも関東地方の民具の一典型例として、その傾向や名称を知る手がかりが示されていると思う。

また、今回は、旧下田家の民具に限っての一覧表となっているが、別に『羽村町史史料集第四集 羽村の民具』も刊行されており⁽²⁾、さらに多摩地区では、市町村ごとに民具を収集保存している博物館、郷土館が多く、民具研究にたずさわる学芸員や研究者による民具調査の蓄積が充実している地域である⁽³⁾。

町田市立博物館で長く民俗担当の学芸員を務められ、民具研究にも多くの業績を蓄積されている畠山豊氏が「東京都多摩域の民俗誌・民俗・民具」⁽⁴⁾をまとめておられ、ここには、多摩地区における民具研究の蓄積もよく整理されている。畠山氏の記載にあるように、羽村の民具調査には、財団法人時代の「日本常民文化研究所」を切り盛りされていた河岡武春氏や潮田鉄雄氏が関与していたことや、府中市在住の宮本常一氏が神保教子氏や武蔵野美術大学生生活文化研究会のメンバーたちとともに民具研究を推進し、府中市、青梅市などで民具調査を展開して多くの民具資料集、民具図集を刊行していることなどが注目され、その後の市町村誌の編纂などで民具の資料集が刊行されて、多摩地区は全国でも稀に見る民具情報の充実した地域であることがわかる。今後、これらのコレクションの資料を比較検討していけば、名称のことがばかりでなく、民具から見た地域の民俗文化の特色を確かめていくことが可能だろう。

さらに、視野を関東地方全域に広げると、「羽村の民家（旧下田家）とその生活用具」の他にも、重要有形民俗文化財に指定されているコレクションに、よく似た性格のコレクションがいくつかある。民家を伴うことも含めて、群馬県の「上州藤原（旧雲越家）の生活用具及び民家」2,589点1棟や、「北武蔵の農具」1,640点1棟があり、埼玉県の「秩父の山村生産用具」236点、東京都西多摩地方の「小河内の山

村生活用具」347点は、群馬のものとともに、山村の暮らしを中心に、「北武蔵の農具」、水田が優勢な地域の農具が基本になっているコレクションとなっている。

また、「荒川水系の漁撈用具」252点は内水面漁労の用具を網羅しており、「房総半島の漁撈用具」2144点、「大森及び周辺地域の海苔生産用具」876点、神奈川県「三浦半島の

漁撈用具」2,603点が、海の漁労活動を総合的に扱っている。さらに、埼玉県「東秩父及び周辺地域の手漉和紙の製作用具及び製品」、千葉県「上総掘りの用具」などは、さまざまな職人技術のひとつの事例として網羅的なコレクションとなっており、これも全国の諸職関連コレクションを統合して、典型になる用具のリストアップが可能になるだろう。

注

- (1) 羽村町教育委員会編『羽村の民家（旧下田家）とその生活用具—民具編—』（『羽村町史史料集：第11集』1984年刊）。調査・執筆を増田昭子氏が担当し、宮本八恵子・田中千晶・野上彰子・佐藤浩・米川幸子の各氏による緻密な実測図が付されている。
- (2) 羽村町教育委員会編『羽村町史史料集第四集 羽村の民具』（1979年刊）。潮田鉄雄、小作寿郎、佐藤広の各氏が執筆を担当

されている。

- (3) 関東地方の生産・生業、衣食住関連の重要有形民俗文化財コレクションについては、全体表の解説参照いただきたい。
- (4) 畠山豊「東京都多摩域の民俗誌・民俗・民具」（『民俗学論叢』27）2012.5.20、相模民俗学会